

北九州市離島振興計画について

1 「北九州市離島振興計画 2023」(案)の概要について

(1)位置づけ

本市では、平成25年4月に、「北九州市離島振興計画 2013」を策定し、藍島・馬島の振興を図ってきた。

令和4年11月に行われた離島振興法の改正に併せて、新たに福岡県に提出する北九州市の離島振興計画として「北九州市離島振興計画 2023」を策定するもの。

(2)計画期間

令和5年4月1日から令和15年3月31日(10年間)

2 計画策定方法

「北九州市離島振興計画 2013」(現計画)を元に、離島振興法の改正点を盛り込み、現計画実施状況及び島民や学識経験者の意見等を反映した上、島づくりの基本的な理念・方向性を定める。

3 今後のスケジュール

- ・令和5年 1月11日 常任委員会への報告
- ・令和5年 1月 中旬 島民からの意見聴取
- ・令和5年 2月 8日 常任委員会への報告

4 参考資料

- ・「北九州市離島振興計画 2023」(素案)概要
- ・「北九州市離島振興計画 2023」(素案)

「北九州市離島振興計画 2023」(素案) 概要

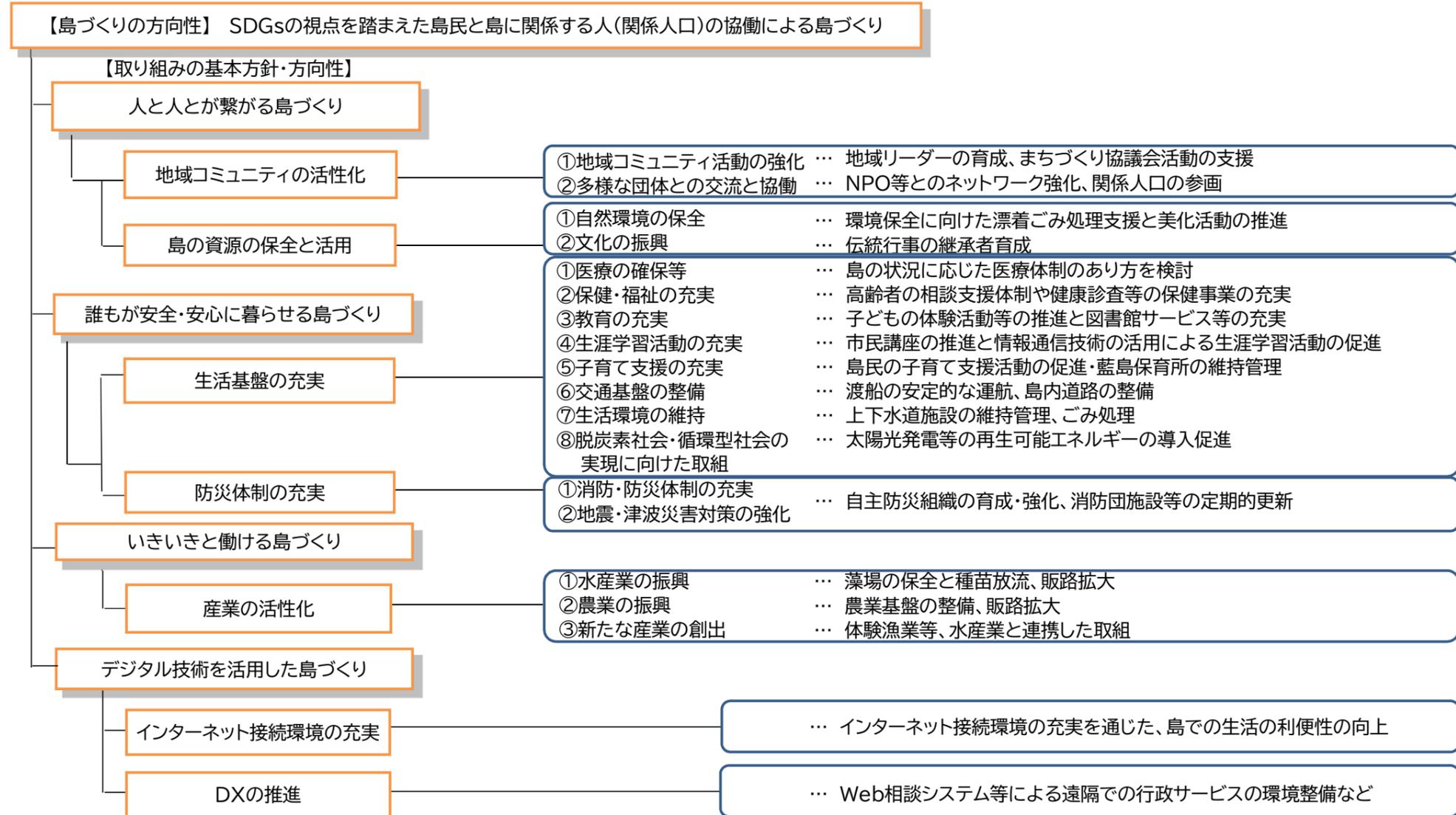
1 島の現状と島民の意向

- ①現状
- 人口・世帯数 藍島 188人(82世帯)・馬島 28人(11世帯)
 - 高齢化率 藍島 42.7%・馬島 57.1% ※R2 国勢調査
 - 産業
 - 漁家 藍島55戸・馬島10戸 ※H30 漁業センサス
- ②島民の意向(島民アンケート・ヒアリング)
- 現在の島の住みやすさ
 - 住みやすいと感じる 藍島 60.0%・馬島71.4%
 - 産業
 - 力を入れたい産業
 - ・藍島 水産業 77.8%、観光業11.1%
 - ・馬島 水産業 57.1%、観光業0.0%
 - 観光についてどう思うか
 - ・今のままでよい・進めて欲しくない 藍島 40.0% 馬島 57.2%
 - 島づくり
 - 今後も住み続けたい 藍島 68.9%・馬島 57.2%
 - 島外からの移住者
 - あまり募集してほしくない 藍島 35.6% 馬島 35.7%
 - 島づくりに必要なもの
 - インターネット接続環境の充実

2 これまでの取り組みの成果と課題

- ①これまでの取り組みと成果
- 人と人が繋がる島づくり
 - 地域コミュニティの活性化
 - ・住民主体の地域づくりを進める助成
 - ・藍島市民サブセンターの管理運営
 - 誰もが安全・安心に暮らせる島づくり
 - 医療の充実
 - ・診療所の運営(看護師の常駐)
 - ・遠隔地の医師が診療を行う体制を構築
 - 交通基盤の整備
 - ・市営渡船「こくら丸」新船の就航
 - 生活環境の維持
 - ・上下水道設備の維持管理と更新
 - ・ごみの収集及び輸送
 - いきいきと働ける島づくり
 - 水産業・農業の振興
 - ・岸壁、物揚場施設の強化
 - ・有用水産物の種苗中間育成・放流事業
 - 観光業の振興
 - ・市HPを活用した情報発信、観光ガイドブックの配布
- ②課題
- 人と人が繋がる島づくり
 - 島民の合意形成による主体的な取り組み
 - 島づくりの活動を支える人材の発掘・育成
 - 島づくりの活動に継続的に関わる関係人口の増加
 - 誰もが安全・安心に暮らせる島づくり
 - 医師や看護師の確保を含めた医療提供体制のあり方の検討
 - 高齢者の相談業務等へのデジタル技術導入
 - 上下水道施設の維持管理と設備更新に伴う経費増加
 - 防災機器・設備の管理及び活用を図るための訓練
 - いきいきと働ける島づくり
 - 水産業・農業の振興
 - ・漁業者による漁獲制限や漁場の保全
 - ・生産者の確保
 - 観光業の振興
 - ・インフラ整備及び島民の観光客受け入れ態勢に合わせた計画作成

3 離島振興計画の体系及び離島振興の取組



4 計画のフォローアップ

・改正離島振興法により、施行5年後に国は同法の施行の状況について検討、必要な措置を講ずる。
本市においても国における検討を踏まえ、必要な措置を検討する。

・進捗状況を把握するため、関係課による「連絡調整会議」の開催